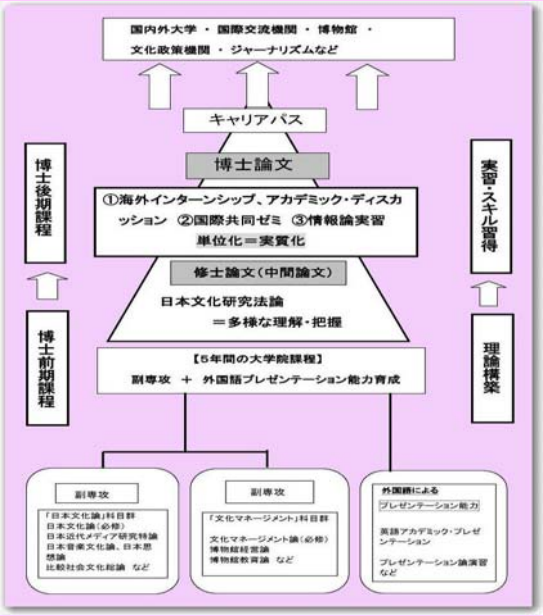
平成 19 年度採択 文部科学省 大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP、平成 19～21 年度）

「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」(JCS)の紹介

2008 年 4 月 7 日（月） JCS 推進室

(A) JCSの目的と活動について

「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」は、文部科学省の「大学院改革支援プログラム」に採択された教育プログラムです。 お茶の水女子大学は、日本における国際日本学研究の最も重要な拠点の一つです。そして、これまでに「魅力ある大学院教育イニシアティヴ」(文部科学省)の支援を受けた「<対話と深化>の次世代女性リーダーの育成」プログラムでも、海外提携大学との協力による国際日本学シンポジウムや共同ゼミを始めとして、この分野での多くの教育的実績を挙げてきました。こうした実績を踏まえ、そして、これまでの経験から見えてきた問題点の解決を積極的に図ることで、国際日本学の研究と教育を更に拡張・発展させていくことが、この教育プログラムの意図です。



このプログラムの背景にある問題意識とは、つまり：

① 国際社会で活動するためには、当然、高度な国際的コミュニケーション能力が必要であること。
② 日本の人文系研究分野が高度な水準にあるにも拘らず、現状では、それが国際的になかなか認知されておらず、その主な原因が、研究者の国際的伝達能力の不充分さにあるのではないかということ。
③ グローバル化する今日の社会では、価値が一元化していく傾向がありますが、そうした傾向を相対化する眼差しとして、日本的思惟方法の提示が役立つに違いないということ。

以上 3 点です。本教育プログラムは、これらの問題点の総合的な解決に向けて、人文系の大学院生の国際的コミュニケーション能力を練磨し、それと共に、日本文化研究の発信の担い手として、国際レヴェルでの社会・文化貢献を為すために必要な能力、知識、思考力を涵養しようとするものです。

具体的には、この教育プログラムは、3 つの柱からなっています。即ち、

(a) 海外の大学で授業実習を行う「海外インターンシップ」や、海外の研究者と専門的な討論実習を行う「アカデミック・ディスカッション」を 始めとする「国際的な現場での教育」。
(b) 本学に蓄積されている日本研究関係の知的資源を活用して、「日本学研究コーパス」を作り、電子メディアを利用して広く海外に発信することで、国際的情報伝達のノウハウを学ぶ「情報伝達スキルの練磨」。
(c) 学生が、自分の特定の研究専門領域だけでなく、学際的・総合的な視点から、日本的思惟方法と文化を広く、深く理解できるようにするために、副専攻として「日本文化論」科目群を設けます。

こうした教育プログラムによって、学生は、日本学研究の最高水準の研究環境の中で学びながら、同時に、海外の大学に留学して得られるのと同程度に高度な国際性を獲得できます。即ち本学大学院で学ぶことで、極めて高度な専門研究と国際性を身に着けることができるのです。

今日の国際社会では、男女が差別なしに共に社会・文化に貢献することが当然となりつつあるわけで、したがって、国内外の大学や研究機関だけでなく、文化機関や、国際政治機関等にも、ますます高い能力をもった女性の進出が期待されています。本教育プログラムによって、正に、そうした国際社会の要請に応える人材が育成されるに違いありません。

取組担当者：大学院人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻長 近藤譲

日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成（JCS）事務局
住 所 ： 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟 5 階 506 号室
電 話 ： 03-5978-5504 / FAX ： 03-5978-5508
E-mail ： gsgp-jcs@cc.ocha.ac.jp URL ： http://www.dc.ocha.ac.jp/dics-jacs/index.htm

（B）平成19年度JCSのおもな活動事業

（2007 年 10 月～）

（1）　ジョイント（共同）ゼミ

2007 年 10 月 19～24 日	日中韓３か国合同 ジョイントゼミ	於・北京日本学研究センター （中国・北京市）
2008 年 1 月 08 日	台湾大学との第２回 ジョイントゼミ【TV 会議】	於・本学人間文化創成科学研究科棟 ５階 SCS 室（視聴覚室）
2008 年 1 月 14～15 日	フランス共同ゼミ 「パリ・ディドロ（第7）大学とお茶の水女子大学：日本学の新たな構築の試み」	於・パリ・ディドロ（第7）大学、フランス国立高等研究院（ソルボンヌ大学内）、コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所（以上、パリ市）
2008 年 2 月 19～23 日	台湾共同ゼミ 「台湾における日本学、 日本における中国学」	於・台湾大学 （台湾・台北市）

パリ・ディドロ（第7）大学での共同ゼミ

（2）第２回国際日本学コンソーシアム

「日本学研究の現在と未来：国際的・学際的なネットワークの構築と活用」

日　時	2007 年 12 月 17-19 日
参 加 校 （8 大学）	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 SOAS（英国）、国立台湾大学（台湾）、カレル大学（チェコ）、淑明女子大学校（韓国）、同徳女子大学校（韓国）、北京外国語大学日本学研究センター（中国）、パデュー大学（米国）、お茶の水女子大学（日本） ※今年度からは、パリ・ディドロ（第7）大学も参加予定

第２回コンソーシアム（日本文学・日本文化　分科会）

（3）　学生海外調査研究

採択者数	20 名（応募総数 28 名）
期　間	5 日間～3 週間
補助金額	15 万～30 万円
渡航先	韓国、中国、タイ、モンゴル、エジプト、アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス、スイス、オランダ

調査テーマ例

韓国無形文化財「太平舞」における伝承過程に関する考察【韓国】
日本と中国における服飾文様の比較研究【中国】
タイにおけるタイ語母語話者日本語学習者の聞き返しストラテジーの使用について【タイ】
海外日本語学習者の動詞形の習得過程【モンゴル】
11～13 世紀東アラブ諸都市における説教師の活動と言説の比較にむけて【エジプト】
英国の教育政策のおける伝統文学教育―シェイクスピアの政治利用【イギリス】
20 世紀前半フランスにおけるアジア音楽の媒介システムについて【フランス】
啓蒙期ハンブルクの音楽と行政に関する史料収集【ドイツ】
ガブリエル・ロワ「象徴的風景」の考察～「木」のイマージュを求めて～【カナダ】

（4）　公開講演会

日　時	テ ー マ	講 演 者
2008 年 1 月 23 日	グローバル時代における海外での日本文学の教え方 ―総合的日本語教育の実践に向けた一案―	ドラージュ・土屋浩美 （米国・ヴァッサー大学助教授）
2008 年 1 月 29 日	21 世紀における 日本語教育の新しい傾向	鄭起永（韓国・釜山外国語大学校 日本語大学学長）
2008 年 2 月 15 日	武 士 道 と 儒 教	徐翔生（台湾・国立政治大学 専任助教授・本学客員研究員）
2008 年 3 月 1 日	韓国内での日本史研究の概況 ―前近代史を中心に―	丁珍娥（韓国・日韓歴史共同委員会 専門委員）

平成 20 年度追加事業

国際日本学シンポジウム（7 月）
副専攻「日本文化論」
　　「文化マネージメント」
日本文化研究コーパス作成実習
海外インターンシップ
アカデミックディスカッション